A03 西浜川周辺（石垣島）における *An. minimus* の分布調査 -2002年-

○才田進¹, 津田良夫², 杉山章³, Hu, X. M.⁴, Nyambura, J.⁵, 高木正洋¹ (¹長崎大・熱研・生物環境,
²国立感染研・昆虫医科学, ³名古屋女大, ⁴Hainan Provincial Institute of Tropical Diseases, ⁵Kenya
 Medical Institute)

Investigation of *An. minimus* around Nishihama River, Ishigaki Island, 2002

Saita, S., Tsuda, Y., Sugiyama, A., Hu, X.M., Nyambura, J., Takagi, M.

*An. minimus*は東南アジアの熱帯熱マラリア媒介蚊として知られている。日本でも先島諸島に分布しているため、疫学的重要度は高く、発生状況の把握は重要である。我々は、2002年7月に*An. minimus*の生息地である石垣島北東部の西浜川周辺で幼虫・成虫の分布調査を行った。

幼虫は、西浜川の本流・支流と吹通川で採集した。成虫は西浜川周辺の山側と海側で人囀法による半夜採集とドライアイストラップによる終夜採集で採集した。また、同トラップは約10mの高さにも設置した。

幼虫採集では採集地点のほぼ全域で*An. minimus*が採集され、西浜川支流>西浜川本流>吹通川であった。成虫採集では、人囀法では海側よりも山側で多数採集され、両地点共に23時-24時に最も多かった。ドライアイストラップにおいても、山側>海側であった。また、山側に設置した高い位置のトラップから*An. minimus*が採集され、比較的高い地点にも分布していることがわかった。

A04 ハマダラカ *An. engarensis* 成虫の形態分類形質について

○高井憲治¹, 小熊譲², 栗原毅³, 二瓶直子³, 沢辺京子³, 小林睦生³ (¹聖マリアンナ医大・免疫
 病害, ²筑波大・生物科学系, ³国立感染研・昆虫医科学)

Morphological characters in *An. engarensis* adults to distinguish from related species

Takai, K., Oguma, Y., Kurihara, T., Nihei, N., Sawabe, K., Kobayashi, M.

1970年代に、北海道における *sinensis* に近縁なハマダラカの存在が明らかとなり *An. engarensis* と記載された。本種が *sinensis* と区別される主なポイントは、(1)唾腺染色体の逆位、(2)強制交尾時の雄把握器運動回数、および、(3)翅の humeral pale spot の存在である。成虫雌の形質が *sinensis* とオーバーラップしていることは、(3)を欠く多数の個体の存在で認められるほか、Kanda and Oguma (1978) も指摘している。今回、聖マリアンナ医大・免疫学・病害動物学教室所蔵の、*engarensis* および日本・韓国の *sinensis* 成虫標本を精査したところ、雌前脚第2肘節白帯、同じく中脚第3肘節白帯、いずれも対節比において、*sinensis* との違いが見いだせた。形態分類形質の発見は、特に野外集団における分布動態の把握上重要である。今後 *engarensis* の成虫形態の判別が容易となるような形態形質の組合せを検討したい。